

水産・畜産事業

ニチレイフレッシュ
https://www.nichireifresh.co.jp/



金子 義史

株式会社ニチレイ 取締役執行役員
株式会社ニチレイフレッシュ 代表取締役社長

海と大地と人をつなぐ

私たちは「鮮度」「おいしさ」「安全」「安心」「健康」「環境にやさしい」をキーワードに生活者の皆様に「心の満足」を提供し続けます。

▶ トップメッセージ

こだわり素材の提供と加工品の取扱い拡大に注力し、安定利益の獲得に向けた施策を実行するとともに、持続可能なサプライチェーンの構築に向けて社会課題の解決に取り組んでまいります。

事業規模

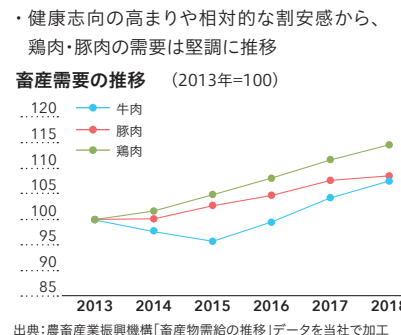
・総資産	水産26,928百万円、畜産18,949百万円	・主な拠点	(水産) (株)フレッシュまるいち、Trans Pacific Seafood Co.,LTD
・食品生産工場	8拠点(国内:7拠点/海外:1拠点)	(畜産)	(株)フレッシュチキン軽米、(株)ニチレイフレッシュプロセス
	(水産) ・国内2社、海外6社		
	・従業員数 523名(国内:216名/海外:307名)		
	(畜産) ・国内5社		
	・従業員数 476名(国内:476名)		

市場環境

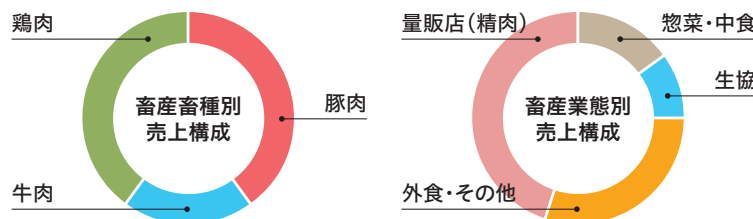
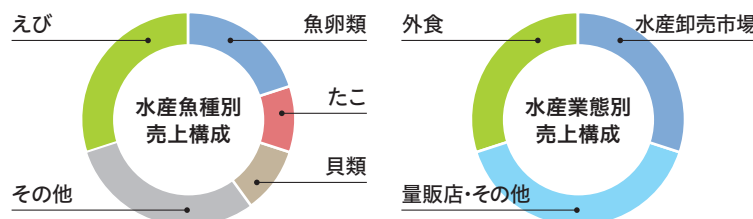
水産事業

- ・日本国内では魚食離れが進むが、世界的には水産品への需要は高い状態が継続
- ・高騰を続けていた一部商材の相場はピークを過ぎ下落傾向

畜産事業



事業内容(2020年3月期)



主な取り扱い商品



天然・養殖えび 各種



寿司ネタ各種



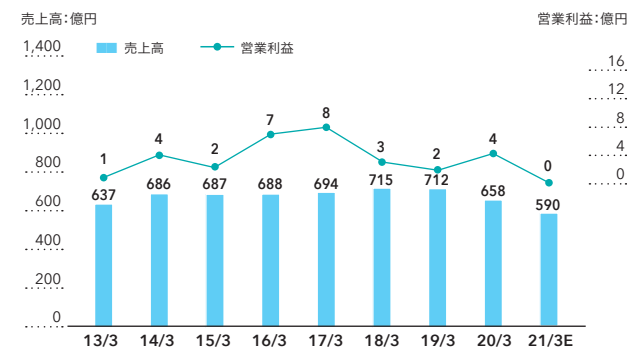
「亜麻仁の恵み®」シリーズ(鶏・豚・牛)

業績の推移

水産事業

- ・主力の「えび」を含めた主要4魚種を中心に、加工度を高めた商品の販売に注力
- ・前期は中食・外食向け加工品の販売が寄与し増益

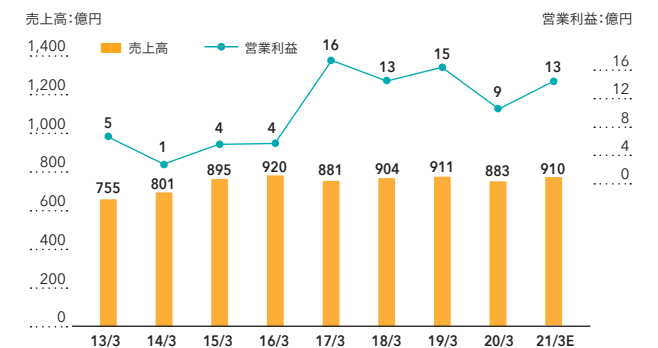
水産事業の売上高・営業利益推移



畜産事業

- ・生鮮鶏肉や中食向け加工品の販売が堅調に推移、輸入品は採算性重視の販売を徹底
- ・前期は加工品の販売に注力したが、国産鶏肉や輸入豚肉相場の影響を受け減益

畜産事業の売上高・営業利益推移



2020年度の取り組み

市場環境

新型コロナウイルス感染拡大により、外食向け商材の取扱いが減少しているが、量販店などを中心に内食・中食需要が拡大

水産

- ・需要が堅調な内食・中食向けの販売に注力するとともに、利益重視の調達・販売やコストコントロールを徹底し利益確保に努める。

畜産

- ・量販店向け生鮮品や生協向け加工品、コンビニエンスストアなどの中食向け加工品の販売を強化。
- ・需要が堅調な内食・中食需要を着実に取り込み、増収・増益を目指す。

TOPICS

グループ事業間の連携を高め、新たな商品を開発

- 水産・畜産事業のこだわり素材を加工食品事業へ供給し、各事業の強みを活かした商品を協働で開発
- 素材の供給に加え、今後新たに求められる商品に対応するため、加工技術や生産機能も含めてグループ事業間で共有し、グループ全体で提案力を強化していく



(画像はイメージです)